

# 日本における野球の普及・発展に関する研究 明治期に着目して

A study of spread and development of baseball in Japan

Focus on the situation of the Meiji era

1K06B152

指導教員 主査 友添秀則先生

中川 勝揮

副査 木村和彦先生

## 【本研究の動機・目的】

私は、小学 2 年生から高校 3 年生までの 10 年余り野球を続け、大学に入学してからはラクロスを始め、部活動中心の生活を送ってきた。その経験は、自分自身にとって、とても有意義なものであり、私自身の現在の人格形成に多大な影響を与えてきたと感じている。その中で最も私に影響を与えた種目は私がこれまで行ったスポーツの中で、最も長い年月を費やした「野球」であると感じている。

日本の野球は明治時代に始まったとされ、大正時代に入るとプロ野球も誕生し、現在に至るまで人気を博してきた。近年では 2006 年、2009 年に行われた WBC (ワールド・ベースボール・クラシック) で日本は二連覇するなど、日本の野球は注目を集めている。

欧米の文化である野球が、日本に紹介され、「する」スポーツとしても「みる」スポーツとしても定着しただけでなく、日本のスポーツ文化を語るのに無視できないまでの存在になったのは、なぜだろうか。そこにどのような背景があるのだろうか。そのような問題意識にもとづいて、この研究をおこなうに至った。したがって、本研究は、日本における明治期の野球の発展と普及の経緯を明らかにしたうえで、その要因について考察するものである。

## 【研究の方法】

本研究は関連文献の講読によって行う。

## 【各章の概要】

### 第 1 章 日本の野球の始まり

明治 5 年 (1872 年) ホーレス・ウィルソンによって日本に野球が伝来した。当時の野球は投手は下手投げ、グラブは使用せず素手でプレーするなど現在の野球とは異なっていた。ウィルソンのほかにも「お雇い外国人」によって日本の各地でほぼ同時期に野球が伝えられた。

同じ頃、アメリカ帰りの日本人、平岡熙によっても野球が日本に持ち込まれ、日本で初めてのクラブチームである「新橋アスレチック倶楽部」が組織された。その活動形態からどのように日本の野球の発展に貢献したかを追う。

### 第 2 章 「一高野球時代」

明治 20 年代に入ると一高が日本の野球の中心的立場に立った。一高では「精神野球」、「勝利至上主義」を軸に一高野球が形成された。また一高野球出身の中馬庚や正岡子規によって野球用語の訳語も完成した。一高野球が形成されるまでの背景、それが普及するまでの経緯を一高に関連する象徴的な事象から明らかにする。

### 第 3 章 「早慶野球時代」

早慶両校で野球が始められ、明治 36 年 (1903 年) になると初の早慶戦が行われた。明治 38 年 (1905 年) の早大のアメリカ遠征が日本の野球にどのような影響をもたらしたかについて触れていき、一高野球を基礎とした野球が続けられた要因は何だったのかを示す。また国民的人気となった野球に対する批判的意見となる野球害毒論とは一体どういう作用があったのかを考

える。

#### 結章

本章では、第1章から第3章までの内容を総括する。第1章から第3章の中で述べたことから、我が国の明治期における野球の発展と普及の要因について考察する。